

—にがうり—

にがうり

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病虫害名													
普	通				▲ 定植								
べ	と												
斑	点												
う	ど												
炭	疽												
ミ	ナ												
ア	ブ												
フ	キ												
ウ	リ												
オ	オ												
ヨ	ト												
ハ	ダ												

べと病

留意事項

- 1 高温、多湿を好み、露地栽培では雨が続くと多発する。
- 2 アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルは薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤<<11>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にし、加湿を避ける。
- 2 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 肥効切れしないように肥培管理に注意する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 前日／4回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>> 【2000倍 7日／3回】
 - ・ [ストロビーフロアブル](#) <<11>> 【3000倍 7日／3回】

斑点病

留意事項

- 1 多湿条件下で発生が多い。

防除方法

- 注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
- 注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 排水を良好にし、過湿を避ける。
- 2 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 窒素質肥料の過用を避ける。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 前日／4回】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【1500～2000倍 前日／5回】
 - ・ [スミブレード水和剤](#) <2> <10> 【2000倍 7日／2回】

うどんこ病

留意事項

- 1 高温乾燥時に発病しやすい。また、生育後半に発病しやすい。
- 2 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 3 アミスター20フロアブルは薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤<11>、SDHI剤<7>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 窒素質肥料の多用、肥効切れを避ける。
- 2 被害葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 前日／4回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <11> 【2000倍 7日／3回】
 - ・ [アフェットフロアブル](#) <7> 【2000倍 前日／3回】
 - ・ [パレード20フロアブル](#) <7> 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [トリフミン水和剤](#) <3> 【3000倍 前日／3回】

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

- 1 アミスター20フロアブルは、薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。QoI剤<11>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 わらまたはポリフィルムなどでマルチングする。
- 4 窒素質肥料の過用を避ける。
- 5 支柱についている古い葉や、巻きひげが発生源になるので除去する。
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 前日／4回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) <<11>> 【2000倍 7日／3回】
 - ・ [トップジンM水和剤](#) <1> 【1500～2000倍 前日／5回】

ミナミキイロアザミウマ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 ほ場周辺の除草を行う。
- 2 うね面をポリフィルム等でマルチングし、土中で蛹化するのを防ぐ。
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ダントツ水溶剤](#) <4A> 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000倍 前日／2回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) <15> 【アザミウマ類 2000～4000倍 前日／4回】
 - ・ [ハチハチ乳剤](#) 劇 <21A> 【アザミウマ類 1000倍 前日／2回】

アブラムシ類

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

- 1 露地栽培では、シルバーポリフィルムでマルチングする。
- 2 施設では、開口部に寒冷しゃを張り、侵入を防止する。
- 3 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) <4A> 【1～2g／株 植穴処理土壌混和 定植時／1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 <4A> 【4000倍 前日／3回】
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3A> 【1000倍 前日／3回】
 - ・ [コルト顆粒水和剤](#) <9B> 【4000倍 前日／3回】
 - ・ [ウララDF](#) <29> 【2000～4000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

フキノメイガ（アズキノメイガ）

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000～3000倍 前日／3回】

ウリノメイガ（ワタヘリクロノメイガ）

留意事項

- 1 幼虫は葉をつづり合わせ、その中で食害する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3 A> 【1000倍 前日／3回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) <2 8> 【2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [カスケード乳剤](#) <1 5> 【2000～4000倍 前日／4回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【ハスモンヨトウ 1000倍 前日／2回】
 - ・ [B T 剤](#) <1 1 A> （IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

オオタバコガ

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【2000倍 3日／2回】
 - ・ [B T 剤](#) <1 1 A> （IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

ヨトウムシ類

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [トレボン乳剤](#) <3 A> 【1000倍 前日／3回】
 - ・ [アディオン乳剤](#) <3 A> 【2000～3000倍 前日／3回】
 - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【ハスモンヨトウ 1000倍 前日／2回】
 - ・ [フェニックス顆粒水和剤](#) <2 8> 【ハスモンヨトウ 2000～4000倍 前日／3回】
 - ・ [B T 剤](#) <1 1 A> （IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

ハダニ類

留意事項

- 1 高温時に発生が多い。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ーにがうりー

- ・ [ダニトロンフロアブル](#) <21A> 【2000倍 3日／1回】
- ・ [ニッソラン水和剤](#) <10A> 【2000～3000倍 前日／2回】
- ・ [サフオイル乳剤](#) <ー>
【野菜類（除いちご、トマト、ミニトマト）300～500倍 前日／ー】
- ・ [サンヨール](#) <ー> 【500倍 前日／4回】

ネコブセンチュウ

防除方法

- 1 本ぽを土壤消毒する。（**XⅢ**土壤消毒 2土壤病虫害等を対象とした薬剤による土壤消毒（4） 参照）
 - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) **劇** <8F>
【20～30kg／10a 均一に散布して土壤と混和 は種または定植21日前／1回】
- 2 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ネマトリンエース粒剤](#) <1B>
【15～20kg／10a 全面土壤混和 は種前または定植前／1回】
 - ・ [ネマキック粒剤](#) <1B> 【20kg／10a 全面土壤混和 定植前／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。